

# 報 告 書

文教厚生委員会は、令和4年11月1日（火）、11月2日（水）の2日間、愛知県豊橋市において 社会教育施設の複合化について、同県豊田市において ICT教育について、視察研修を行いました。

以下その概要について報告します。

## 記

豊 橋 市	市制施行	明治 39 年 8 月 1 日
	人 口	370,829 人
	世 帯 数	162,193 世帯
		(令和4年4月1日現在)
	面 積	261.91 k m <sup>2</sup>

豊橋市は、愛知県の南東部に位置し、東は弓張山地を境に静岡県と接している。地形はおおむね平坦で、東の山地から西の三河湾へと緩やかに傾斜し、南部は台地を形成し、急な崖で太平洋に面している。面積は県下 54 市町村中 6 番目の広さとなっている。

## 視察事項

### 【社会教育施設の複合化について（大清水まなび交流館）】

#### 1. 施設概要

施設機能	：	公民館、窓口センター、図書館
構 造	：	1階 鉄筋コンクリート造、 2階 木造
敷地面積	：	3,529.24 m <sup>2</sup>
延床面積	：	2,306.44 m <sup>2</sup> （1階：1,366.50 m <sup>2</sup> 、2階：939.94 m <sup>2</sup> ）

#### 2. 経過

平成 24 年度	ワークショップ等の開催 基本設計・実施設計
平成 25 年度	建設工事
平成 26 年度	愛称募集（「ミナクル」に決定） 大清水窓口センター先行オープン
平成 27 年度	全館オープン

### 3. 費用

- ・建設費 約 10 億円  
(測量、基本・実施設計、地質調査、整備工事、しょうぶ園移設工事等)

### 4. 施設の特徴

- ・親しみやすくぬくもりを感じられるよう、東三河産の木材を多く使用
- ・太陽光発電を活用した次世代型エネルギー供給システムを導入
- ・公共施設では珍しい、開放感を演出するためシースルーエレベーターの設置

### 5. 複合化した理由

既存の南陵地区市民館（公民館）と大清水窓口センターが老朽化し建替えの必要性があった。また、市の南地域に図書館を新設する構想があった。

### 6. 複合化による効果

- ・公民館、窓口センター、図書館の3つの機能を単に施設内に配列するのではなく、重複する用途の集約化を行い連携を強めることで、利便性の向上はもとより、地域の人々の生涯学習活動や文化・交流活動をより活性化。
- ・開放的で、明るくぬくもりのある空間が利用者に好評。また、複合化によって幅広い世代が訪れるようになり、利用促進につながっている。
- ・共有スペースで雑誌や新聞を閲覧でき、窓口の待ち時間も快適に過ごすことができるようになり、市民サービスの向上につながった。
- ・施設開設後、利用者数は増加傾向にある。

### 7. まとめ

豊橋市の事例は、公民館および窓口センターの建替えと図書館の設置計画が組み合わさり、3館の複合施設となったものである。複合化によるメリットは、利用者の利便性の向上だけではない。公共施設管理の視点からも、個別に建て替えるよりは1つの施設に集約することで、管理・運営にかかるスペースや人員を削減でき、ランニングコストの低減化を図ることができる。

本市と豊橋市は人口規模も面積も大きく異なっているが、市民サービスの向上、生涯学習活動の推進、図書館の利用者数の増加といった点では、本市も取り組んでいることは同じであるため、参考になることは多くあった。

公共施設の老朽化は、本市でも抱えている大きな課題である。今後の公民館や図書館等の在り方を検討していくにあたり、選択肢の一つとして複合化施設の設置が効果的な手法かどうかを判断する必要がある。

豊 田 市

市制施行 昭和 26 年 3 月 1 日

人 口 417,875 人

世 帯 数 184,230 世帯

(令和 4 年 11 月 1 日現在)

面 積 918.32 k m<sup>2</sup>

豊田市は、愛知県のほぼ中央に位置し、愛知県全体の 17.8%を占める広大な面積を持つまちである。全国有数の製造品出荷額を誇る「クルマのまち」として知られ、世界をリードするものづくり中枢都市であり、また、市域のおよそ7割を占める豊かな森林、市域を貫く矢作川、季節の野菜や果物を実らせる田園が広がる、恵み多き緑のまちでもある。

## 視察事項

### 【ICT 教育について (AI 型教材「Qubena」の活用)】

#### 1. 豊田市の教育環境

児童生徒数 : 約 35,000 人

教員数 : 約 3,000 人

学校数 : 104 校 (小学校 75、中学校 28、特別支援 1)

学校規模 : 小学校 21 人～814 人

中学校 37 人～829 人

#### 2. 豊田市の ICT 教育の目的・目標

- ・豊田市学校教育の情報化プラン (2021～2025) を策定し、ICT 教育の推進
- ・目指す子ども像を「つなげる子ども」とし、以下の 4 つの姿の実現を目標としている
  - ①これまでの自分とこれからの自分をつなげて未来を切り拓く子ども
  - ②自分と他者とつなげて、納得解や最適解を一緒に創り上げる子ども
  - ③学校での学びを、家庭や地域、世界につなげて生かす子ども
  - ④知識や情報をつなげて、使える知恵や新たな価値を創る子ども

#### 3. AI 型教材「Qubena」について

間違えたポイントを AI が分析し、児童生徒一人ひとりの習熟度に応じた最適な問題を出題する学習教材である。過去の単元や前の学年の分野でつまづいているポイントがあった場合も、AI がその児童生徒が解くべ

き問題へと誘導することで、効果的で効率的な学習ができる。

#### 4. Qubena の導入経緯

- ・令和 2 年度に一人 1 台タブレットを整備した段階では、まず「協働的な学び」を強く推進するため SKYMENU Cloud を導入した。
- ・「個別最適な学び」を推進するため、令和 2 年度に、機能や他自治体の導入実績等を参考に 3 つのデジタルドリル教材を選定し、モデル校で検証。
- ・検証校の教員もメンバーに加えたデジタルドリル教材選定委員会を開催し、「AI による個別最適な問題の出題」「手書き機能」「リアルタイムでの進捗把握」といった機能の有用性が評価され、令和 4 年 7 月より Qubena を市内全校に導入。

#### 5. 導入による効果

- ・導入して間もないため、学力向上等の数値的な変化は今後分析していく予定。
- ・回答に対しすぐに正誤判定が出るため、次々と問題を解いていくことができ、児童生徒が楽しく学習ができる。また、回答を間違えた場合はすぐに「×」マークが出るのではなく、ヒントが出て再考する時間を与えてくれるなど、個別最適な学びに役立っている。
- ・家庭で自主的に Qubena に取り組む児童生徒が増えた。
- ・教員は児童生徒の学習状況や苦手分野、つまづいているポイントをリアルタイムで把握できるようになり、適切な学習指導に役立っている。

#### 6. 現状の課題や今後の取組み

- ・ネットワーク環境が必要であるため、現在、学童保育所では使用できない。学童保育所で宿題をしたい児童もいるため、今後の対応が必要。
- ・全職員を対象とした ICT 機器の活用調査や Qubena の利用率、毎月の各校の ICT 機器活用調査から、学校間や教員間で活用率の差がある。調査結果や各校からの要望をもとに、研修内容を改善していく。

#### 7. まとめ

豊田市は児童生徒の学力向上のためだけに AI 型教材を導入しているのではなく、「授業を変える」を重要なテーマとして ICT 教育を推進しており、AI 型教材はその一つの手段としている。

時代と共に教育内容は変化し、近年はさらに変化のスピードが加速し

ている。ICTの活用はいまや当然の時代となっているが、単にICTを導入するのではなく、ICTをどのように活用すればどのような結果が得られるか、その結果からさらにどのようなことに活用していくかを検証することが重要である。

以上

なお、詳細については、議会事務局に資料を保管していますので、ご覧ください。